事業事前評価表（技術協力プロジェクト）

作成日：平成17年3月25日
担当部・課：人間開発部第三グループ保健人材育成チーム

1.案件名

ベトナム国中部地域医療サービス向上プロジェクト

2.協力概要

(1) プロジェクト目標とアウトプットを中心とした概要の記述

本プロジェクトは、ベトナム中部地域の基幹病院であるフエ中央病院におけるモデル医療サービスの実践、中部地域の省病院の医療サービスの把握、研修運営体制の確立を通じて、同病院が中部地域12省1特別市の14ヶ所の省病院を対象として実施する人材育成が拡充することを目的とする。

(2) 協力期間

2005年7月～2010年6月

(3) 協力総額（日本側）

6.9億円

(4) 協力相手先機関

保健省（Ministry of Health）、フエ中央病院（Hue Central Hospital）

(5) 国内協力機関

厚生労働省、国立国際医療センター等

(6) 裨益対象者及び規模、等

直接裨益者：フエ中央病院職員（1,710名）、中部地域の省病院職員（約6,800名）

最終受益者：プロジェクト対象の中部地域の住民（約1,224万人）

3.協力の必要性・位置付け

(1) 現状及び問題点

ベトナム保健医療セクターは、ドイモイ政策導入による経済成長や民間医療サービスの自由化、医療保険制度の導入等の結果、主要保健指標も大幅に改善されてきたが、一方で所得格差の拡大、山間部と都市部での医療サービスの格差の増大が新たな問題となっている。中でも、中部地域は他の地域と比較して経済発展が遅れ貧困層の割合が高く、保健指標も他地域に比較して劣っている。

ベトナム保健省は、医療従事者の地域格差を緩和するために、全国の上位医療施設に対して下位医療施設の医療技術向上を目的とした指導活動を義務付け、上位医療施設内にその指導活動を企画・運営する地域医療指導活動室を設置することを推進している。中部地域の基幹病院であるフエ中央病院では、1998年に同室を設置して省病院を対象とした研修を実施してきている。しかし、その研修活動は必ずしも十分なものではない。

したがって、中部地域全体としての健康水準向上のためには、同地域の各省病院が期待された医療サービスを提供できるように、フエ中央病院の研修機関としての機能を高め、省病院に対する指導、研修活動を拡充させることが急務となっている。

(2) 相手国政府国家政策上の位置付け

ベトナムの社会経済開発10ヵ年戦略（2001～2010年）では保健医療セクターの開発に関して、第一次から第三次まですべてのレベルにおける保健医療サービスの質を改善することが掲げられている。また、保健医療セクターの10ヶ年戦略であるベトナムヘルスケア・保護戦略（2001～2010年）でも、すべての国民が、質の高い医療へのアクセス及び利用が実現できることを目指し、目標達成のための施策として各レベルでの人的資源開発、地域のニーズに応じた治療システムへの投資などを掲げている。

(3) 我が国援助政策との関連、JICA国別事業実施計画上の位置付け（プログラムにおける位置付け）

JICA国別事業実施計画は、上記国別援助計画と同じ重点分野「生活・社会面での改善」の中で、第三次医療機関が中核・拠点病院としての役割を果たし得るようその機能を強化することを重点として謳っている。本プロジェクトでの第三次医療機関を拠点とした第二次医療機関の人材育成は、わが国の対ベトナム国別援助計画及びJICA国別事業実施計画の目的に合致するものである。

4.協力の枠組み

〔主な項目〕

(1) 協力の目標（アウトカム）

1）協力終了時の達成目標（プロジェクト目標）と指標・目標値

「フエ中央病院の省病院を対象とした研修機能が拡充される」

＜指標・目標値＞ 量的側面：職種別研修受講者数、質的側面：（研修で学んだ内容を現場で実践しているかどうかを確認する手段としての）院内感染監視結果を報告する省病院数

2）協力終了後に達成が期待される目標（上位目標）と指標・目標値

「中部地域の省病院の医療サービスが改善される」

＜指標・目標値＞ 省病院の病院機能評価結果、省病院の院内死亡率

(2) 成果（アウトプット）と活動

1）成果1：「省病院の模範となる医療サービスがフエ中央病院で実践される」

主な活動：看護管理の改善、トータル・ケア（ベトナム政府が病院の医療サービスの質の向上を目指して推進している「患者中心のチーム医療」の概念）の改善、院内感染対策の改善、医療機材保守管理の改善

＜指標・目標値＞ モデル病棟における患者の平均入院日数、患者の満足度調査、定期点検記録の記入状況、機材の稼働率、フエ中央病院の医療サービスの評価結果

2）成果2：「研修運営体制がフエ中央病院で確立される」

主な活動：フエ中央病院における研修ユニットの設置、計画から実施・評価に至る研修管理の確立、研修調整委員会の設置、教材開発、省病院に対する研修情報の広報

（優先研修テーマは、救急、産科、小児科、麻酔、輸血、看護管理）

＜指標・目標値＞ 研修対象となった省の数、評価が行われた研修コースの数・割合、研修ユニットで勤務したスタッフの人数・勤務日数

3）成果3：フエ中央病院が各省病院の医療サービスの状況を把握する

主な活動：省病院データベースの維持管理、研修ニーズ調査の実施、研修効果の調査の実施

＜指標・目標値＞ 調査結果が報告された省の数

(3) 投入（インプット）

1）日本側（総額6.9億円）

- 専門家派遣（4.2億円）：
  長期3名（チーフアドバイザー、業務調整員、看護管理）
  短期年間3～4名（機材保守管理、研修管理、院内感染対策等）
- 機材供与（1.1億円）：研修管理用機器、車両等
- 研修員受入れ（0.6億円）：年間4名程度（研修管理、院内感染対策、看護管理等）
- 現地業務費（1億円）：省病院スタッフ研修経費、教材作成費等

2）ベトナム国側

- カウンターパートの配置
- 事務所の提供（病院敷地内の事務所）、オフィス機器、研修実施経費、研修施設の確保
- プロジェクト活動費
  事務所維持管理費用等

(4) 外部要因（満たされるべき外部条件）

- 保健省が地域医療指導活動（研修活動）の政策を継続する。

5.評価5項目による評価結果

以下の視点から評価した結果、協力の実施は適切と判断される。

(1) 妥当性

本案件は、以下に示すとおり、ベトナム政府の政策、対象地域のニーズ、我が国の援助政策との整合性を確保し、且つ我が国のベトナム保健医療セクターでの経験を活用できるという優位性があることから妥当性が高いと判断できる。

- 上記3．のとおり、ベトナム社会経済開発10ヶ年戦略及びヘルスケア・保護戦略において、すべての国民が質の高い医療への利用を実現できることを目指しており、本プロジェクトの方向性と合致している。
- その戦略として、ベトナム政府保健省は、医療従事者の地域格差の是正を優先課題として掲げ、上位レベルの医療施設に対して下位医療施設スタッフの指導を推進する地域医療指導活動を強化している。本プロジェクトはこの方針に沿って、他の地域と比較して貧困層の割合が高い中部地域を対象として、拠点病院であるフエ中央病院の省病院の医療スタッフを対象とする研修事業を拡充し、第二次と第三次レベルの医療サービスの質の改善を目指すものであり、ベトナム政府の政策を支援するものである。
- わが国は教育・保健医療分野をベトナムへの援助政策の重点分野として位置付け、具体的には各レベルの医療施設の効果的な連携・役割分担等のレファレル体制を確立するための支援を展開している。また、わが国は長期にわたってベトナムの拠点病院である南部のチョーライ病院、北部のバックマイ病院への支援を行ってきた実績があり、特に上位医療施設による下位医療施設の人材育成についてはこれまでの実績や教訓を活かすことができ、優位性がある。

(2) 有効性

本案件は、次のような有効性が見込める。

- プロジェクトでは、成果2）で研修運営体制を確立し同時に成果3）で対象病院の医療サービスや研修のニーズ調査を実施する。この二つのアウトプットによって効果的な研修実施の体制が構築される。さらに成果1）で研修参加者が学ぶに足る診療サービスやケアを研修の場であるフエ中央病院で実施し、モデル医療サービスとして確立する。改修された新外科診療棟においてモデル医療サービスを実践し、その後省病院スタッフを対象とした研修に導入していく。このようにプロジェクト目標達成のために必要不可欠な要素が効果的に組み合わされていることで有効性が見込める。
- これまで拠点病院では、南部のチョーライ病院、北部のバックマイ病院に無償資金協力と技術協

力を実施しているが、中部地域を対象とした本プロジェクトは、北部・中部・南部とベトナム全体の保健医療状況の向上を目指したプログラムアプローチとしての取り組みであり、相互の連携により有効性をさらに高めることができる。

(3) 効率性

本案件は以下の理由から効率的な実施が見込める。

- わが国は、2003年度に無償資金協力「フエ中央病院改善計画」により、同病院の中央診療棟・外来棟などの建設と医療機材の整備を支援した。この支援に併せ、時宜を得た人材育成の支援が組み合わされることにより、相乗効果を高め、効率的に成果を達成することができる。
- 本プロジェクトではチョーライ病院やバックマイ病院でのわが国の技術協力の経験や教訓、またこれまでの協力で構築されたノウハウを活かすことができる。
- 協力当初から省病院への波及を主眼としており、フエ中央病院職員（1,710名）のみならず、省病院職員約6,800名に対して直接的・間接的に知識・技術の向上を図ることが可能と考えられるため、費用対効果は高い。

(4) インパクト

本案件のインパクトは以下のように予測できる。

- プロジェクト実施によってフエ中央病院の省病院に対する研修事業が拡充された結果、研修参加者が増え、省病院の医療従事者の能力と医療サービスの質が向上すると想定される。
- 患者が至近の医療施設において適切な治療をうけることができ、彼らの機会費用が軽減される。

(5) 自立発展性

以下の通り、本案件実施による効果は、プロジェクト終了後も持続することが見込まれる。

1）組織能力

- フエ中央病院は中部地域医療の基幹病院として位置づけられ、保健省からの通達に基づき、中部地域における省病院の医療サービスの質の改善のための指導的役割を果たすことが明確に規定されている。また、フエ中央病院は地域医療指導活動の実績を有しており、研修管理能力の向上を図ることにより、組織的持続性が一層高められる。

2）財政能力

- フエ中央病院全体の運営維持に必要な経費は予算が確保される見込みである。また、フエ中央病院が省病院に対して行う指導・研修活動経費については、これまでもベトナム側負担で実施されてきているが、今後研修拡充を図るにあたり、省側負担については、今後検討が必要である。

3）社会的・環境的・技術的受容性

- 上位の医療施設による下位の医療施設のスタッフの指導は、保健省の重要な政策のひとつであり、今後これら活動はさらに強化される見込みである。
- ベトナムの公的病院においては人材の定着率が高く、移転された知識・技術の定着化は図られやすい環境にある。

6.貧困・ジェンダー・環境等への配慮

本プロジェクトの対象地域は、中部山岳地域の貧困省を含んでいる。また、看護管理の改善を通じ、女性が多くを占める看護職のマネジメント能力の向上、エンパワメントを図る。

7.過去の類似案件からの教訓の活用

類似案件の有無：有

同国の類似案件であるチョーライ病院プロジェクト、バックマイ病院プロジェクトにおいては、病院

医師の関心が新しい医療技術の習得に向く傾向にあったため、人材育成システムや地方病院指導への着手・体制整備に時間を要した。この教訓を踏まえて、本プロジェクトでは、省病院を対象とした人材育成を目標として明確に打ち出している。さらに研修を、1）フエ中央病院職員に対する研修、2）フエ中央病院で実施する省病院に対する研修、3）省病院に対する現場での研修、と定義してベトナム側と合意し、研修の焦点が明確になっている。

8.今後の評価計画

- 中間評価 第3年次の後半
- 終了時評価 第5年次の後半
- 事後評価 協力終了3年後を目途に実施予定